

願いが叶う土鈴が生まれた物語

願いが叶う神社として地元に親しまれてきた叶嶽神社（かのうだけじんじゃ）は、福岡市西区今宿上ノ原の叶岳の山頂にあります。令和2年1月1日、その社務所に、今宿の有志たちが手がけた土鈴（どれい）のお守りがはじめて並びました。



土鈴は、古来から世界中にあった原始的な楽器で、その響きは魔除けの効力があるとされ、祭祀に用いられてきました。

お守りを作るきっかけは、叶嶽神社をもっと今宿内外の人に知ってもらいたいという願いからです。近年、参拝者が減り、おさい錢も減っています。高齢化した町内の世話人たちが叶嶽神社に続く山道整備や大祭の準備を担っています。おさい錢は、その経費にもなります。

「売れなかつたらみんなで買えばいいね」と売れるかどうか、少し不安でしたが、限定20個は完売し、売上は全て神社に奉納できました。



土鈴のお守り作りは、地域の多くの人の手を介した連携プレーでした。今宿の唐津街道にある博多土鈴の博秀堂さんから調達した土鈴に、上ノ原在住の書家の方が文字入れを手がけました。他には、赤米の稻穂や杉板を提供する人、木をカットする人、それを焼き板にする人、パッケージデザインをする人、包装する人、作業場所を提供する人など、有志たちが年の瀬に手分けして完成させました。

お守り作りを通して、地域にいろいろな資源があること、特技をもつ人がいることがわかりました。そして、それがつながると新しいものが生まれるということが実感できました。

文=末本圭子